

## Vol.223 親が思う子どもの夏休みの必要性

8月下旬になると長い夏休みが終わって、通学する子どもの姿を目にするようになります。学校の夏休みは、地域や学校によって開始時期や終了時期、日数には違いがありますが、30日～40日程度の長い期間を夏休みとしている学校が多いようです。では、小中高生の子どもの持つ親は夏休みについて、どのように思っているのでしょうか？今回は、夏休みに入る7月に小学・中学・高校生の子どもの持つ親を対象に、夏休みの必要性とその理由、子どもの夏休みの予定を調査しました。

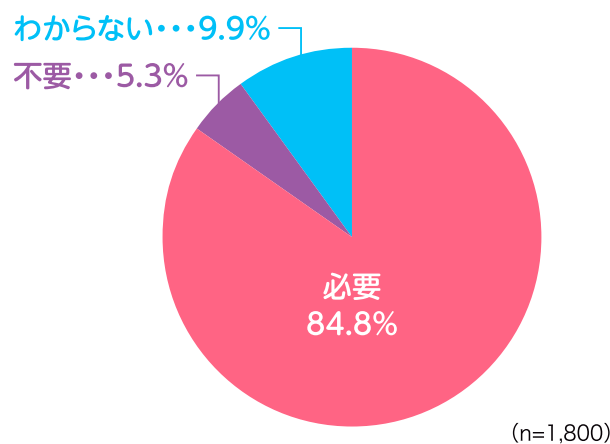


### 調査概要

調査対象：小学・中学・高校生の子どもの持つ親  
1,800人  
調査方法：インターネットリサーチ  
実施時期：2024年7月

## Q1. 夏休みの必要性

小中高生の子どもの持つ親が思う子どもにとっての夏休みの必要性は、「必要」(84.8%)という回答が8割以上を占め、「不要」(5.3%)という回答は少数でした。



【図1】 子どもにとって、夏休みは必要だと思いますか。(単数回答)

## Q 2. 夏休みの必要性の理由

小中高生の子どもの持つ親が、子どもに夏休みが必要と思う理由は、「いろいろな経験が出来るから」「自由研究など普段取り組めない事ができる」「旅行や留学など、学校以外の体験ができるから」「長期休みにしかできない時間の使い方ができるから」など、普段と違う経験機会や長い休みを有意義に過ごす大切さがあげられました。一方で、夏休みが不要と思う理由は、「共働きだと大変」「給食がないので毎日お昼を作らないといけないため、経済的負担がかなり多い」「家の光熱費が上がる」「仕事があるので毎日家にいられると困る」など、いつもと違う生活での親や家計への負担があげられました。また、夏休みで「学習不足分を補えるチャンスがある」と「学習が遅れる」という学習面に関する必要がある・不要の回答で共通して見られました。

### 必要と思う理由(n=1,527)

- 友達と楽しい思い出ができる。(高校生女子の親)
- 生徒としてもそうだが、先生にも休暇をとってほしい。(高校生男子の親)
- 学生の時だけ経験出来るから。(高校生女子の親)
- 旅行や留学など、学校以外の体験ができるから。(高校生女子の親)
- 長期休みにしかできない時間の使い方ができるから。(中学生女子の親)
- 暑すぎて、通学が大変だから。(中学生男子の親)
- 学習不足分を補えるチャンスがあるので。(中学生男子の親)
- リフレッシュするため。(中学生男子の親)
- いつもと違う経験をするための重要な機会。(中学生男子の親)
- 色々な経験が出来るから。(小学生女子の親)
- 自由研究など普段取り組めない事が出来る。(小学生男子の親)
- 計画を立てて生活することの大事さがわかる。(小学生女子の親)
- 家族とゆっくり過ごす時間も必要だと思うから。(小学生男子の親)

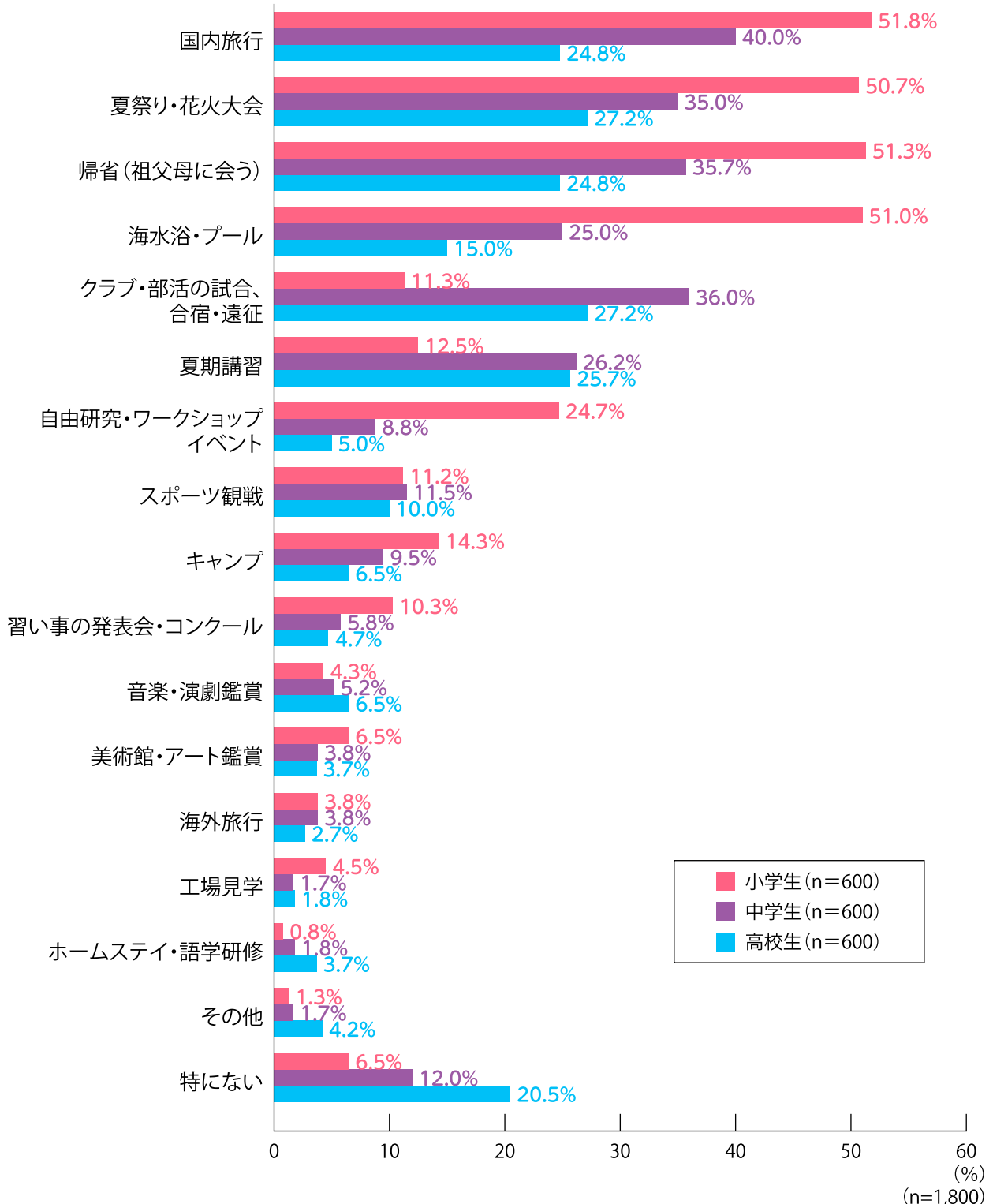
## 不要と思う理由(n=95)

- ほとんど部活だから。(高校生女子の親)
- 共働きだと大変。(高校生男子の親)
- 毎日学校に行ったほうが健康的に良い。(高校生男子の親)
- もっと勉強させたほうが良い。(高校生女子の親)
- 学習が遅れる。(中学生男子の親)
- 子どもがダラダラ過ごすから。(中学生女子の親)
- 夏期講習などで、結局、通学することになるから。(中学生男子の親)
- 給食がないので毎日お昼を作らないといけない経済的負担がかなり多い。(中学生男子の親)
- 家の光熱費が上がる。(中学生女子の親)
- 仕事があるので毎日家にいられると困る。(小学生女子の親)
- 親が大変。(小学生女子の親)
- 子どもが夏休みでも親は仕事なので昼食の用意など大変。(小学生女子の親)
- もっと学校などで学んで欲しい。(小学生男子の親)


【表1】 夏休みの必要性の理由を教えてください。(自由回答)

### Q 3. 子どもの夏休みの予定

今年の夏休みにお子様が予定していることを複数回答で聞いたところ、「国内旅行」(小学生51.8%、中学生40.0%、高校生24.8%)が最も多く、続いて「夏祭り・花火大会」(小学生50.7%、中学生35.0%、高校生27.2%)、「帰省(祖父母に会う)」(小学生51.3%、中学生35.7%、高校生24.8%)、「海水浴・プール」(小学生51.0%、中学生25.0%、高校生15.0%)という結果で、小学生の夏休みの予定が多くみられました。また、小学生と比較して、「クラブ・部活の試合、合宿・遠征」(小学生11.3%、中学生36.0%、高校生27.2%)と「夏期講習」(小学生12.5%、中学生26.2%、高校生25.7%)は、中学生と高校生の割合が多いという結果になりました。



【図2】 今年の夏休みにお子様予定していることは何ですか。(複数回答)

 **まとめ**

学校の夏休みは、1881年(明治14年)に文部省(現・文部科学省)が「夏季休業日」を定めたことが起源とされています。現在では、公立学校は市区町村または都道府県の教育委員会が期間を定めているため、夏休みの日数は全国の学校で一律ではなく、その地域の風土や気候に応じた日数になっています。

今回、小中高生の子どもを持つ親1,800人を対象にした調査では、夏休みの必要性は、「必要」(84.8%)という回答が多く、子どもにとって夏休みは必要だと思っている親が8割以上いるという結果になりました。夏休みが必要という回答の理由は、「いろいろな経験が出来るから」「自由研究など普段取り組めない事ができる」「旅行や留学など、学校以外の体験ができるから」「長期休みにしかできない時間の使い方ができるから」などの普段と違う経験機会や長い休みを有意義に過ごす大切さがあげられました。また、夏休みが不要という回答の理由は、「共働きだと大変」「給食がないので毎日お昼を作らないといけないため、経済的負担がかなり多い」「家の光熱費が上がる」「仕事があるので毎日家にいられると困る」などの親や家計への負担などが要因としてあげられました。学習面に関しては、夏休みで「学習不足分を補えるチャンスがある」「学習が遅れる」というメリット・デメリット双方の声もありました。子どもの夏休みの予定は、「国内旅行」「夏祭り・花火大会」「帰省(祖父母に会う)」「海水浴・プール」が多くみられ、「クラブ・部活の試合、合宿・遠征」「夏期講習」は、小学生と比較して中学生と高校生で予定している割合が多いという結果になりました。このようなことから、子どもの夏休みについては賛否の声はあるものの、小中高生の子どもを持つ親の大半は「夏休みは必要」と感じていることがわかりました。

子どもにとって夏休みは、単なる長い休暇ではなく、普段の学校生活では得られない経験やアクティビティに参加したり、旅行や帰省などで地域や文化・風習に触れたり、家族や友人との思い出づくりなど、学校外での学びや体験を通じて、社会的スキルやコミュニティを育む大切な期間のようです。

毎月最終  
火曜日  
更新

**カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～**

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。  
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

検索 <http://kanko-gakuseifuku.co.jp>